中小企業景況レポート

No.42　中栄信用金庫　地域支援部

2022年1月～3月実績と2022年4月～6月見込み

◆調査概要

調査時期	2022 年 3 月上旬
調査地域	秦野市、伊勢原市、平塚市、厚木市、開成町
調査企業数	340 社
回答企業数	322 社

【調査先及び回答状況】

	調査先	回答数	回答率
製造業	94	88	93.6
卸売業	30	29	96.6
小売・飲食業	65	62	95.3
サービス業	53	49	92.4
建設業	63	59	93.6
不動産業	35	35	100.0
合　計	340	322	94.7

◆1月～3月期の概況

～企業物価の上昇が続き、景況感は 2 期連続の悪化となる～

当金庫主要営業地区内における中小企業を対象に景気動向調査を実施した結果、全業種総合の業況判断 D.I. は▲21.7 を示し、前回調査（2021 年 10 ～ 12 月期）に比べ 0.6 ポイントの小幅悪化となりました。

1 月のコロナウイルス感染者数の増加に伴うまん延防止等重点措置の延長により、小売・飲食業を中心に厳しい状況が続いております。また、世界情勢の悪化による原油価格をはじめとする企業物価の上昇に伴い企業収益が下押しされたことにより景況感は 2 期連続の悪化となっております。

特別調査では原材料・仕入価格について 1 年前と比較した際にどの程度変化したかという問に対し 9 割超の企業が原材料・仕入価格が上昇したと回答し、仕入価格の上昇分を販売価格に全く転嫁できていない、ほとんど転嫁できていないと回答した企業は 3 割超と自社の販売価格に思うように転嫁できていない状況となっております。

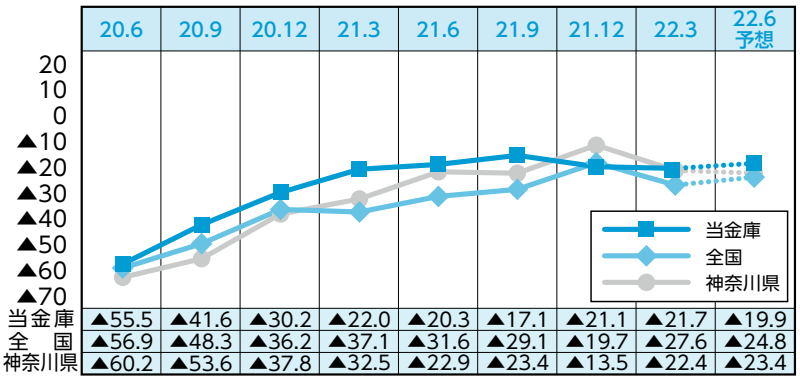
項目別にみると、売上額実績 D.I. は 18.3 ポイント悪化の▲20.8、収益実績 D.I. は 20.8 ポイント悪化の▲26.1 となっております。仕入価格 D.I. は 11.1 ポイント上昇の 60.4、人手過不足 D.I. は 0.2 ポイント不足感が弱まり▲21.5、資金繰り D.I. は 8.2 ポイント悪化の▲15.6 となっております。また、業種別の景況感は、サービス業が 15.4 ポイント改善の▲30.6、卸売業が 15.0 ポイント改善の▲20.7、不動産業が 2.8 ポイント小幅改善の 5.7、製造業が 1.3 ポイント小幅悪化の▲14.7、建設業が 6.7 ポイント悪化の▲13.6、小売・飲食業が 15.6 ポイント悪化の▲48.4 となっております。（業種別の詳細については、次頁以降をご参照ください。）

なお、全国の中小企業業況判断 D.I. は 7.9 ポイント悪化の▲27.6、神奈川県内については 8.9 ポイント悪化の▲22.4 となっております。（全国と神奈川県の D.I. 値については、信金中央金庫による調査に基づいております。以下同様。）

◆4月～6月期の見通し

来期の業況判断予想は 1.8 ポイント小幅改善の▲19.9、売上額 D.I. は 18.6 ポイント改善の▲2.2、収益 D.I. は 14.6 ポイント改善の▲11.5 の予想となっております。

業況判断D.I. 値（全業種）



	20.6	20.9	20.12	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6 予想
当金庫	▲55.5	▲41.6	▲30.2	▲22.0	▲20.3	▲17.1	▲21.1	▲21.7	▲19.9
全　国	▲56.9	▲48.3	▲36.2	▲37.1	▲31.6	▲29.1	▲19.7	▲27.6	▲24.8
神奈川県	▲60.2	▲53.6	▲37.8	▲32.5	▲22.9	▲23.4	▲13.5	▲22.4	▲23.4

全国、神奈川県の業況判断 D.I. 値は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所が全国約 16,000（うち神奈川県 約 480）の中小企業を対象に実施している「全国中小企業景気動向調査」の調査データに基づいております。

D.I. 値とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から、「悪い」「やや悪い」と回答した企業の割合を引いた値です。値が小さいほど業況判断は悪いということになります。

業種別景気天気図

	前　期	今　期	予　想
総　合			
製 造 業			
卸 売 業			
小売・飲食業			
サービス業			
建 設 業			
不 動 産 業			

※この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました。

好調 良い ← → 低調 悪い

製 造 業

●概　況

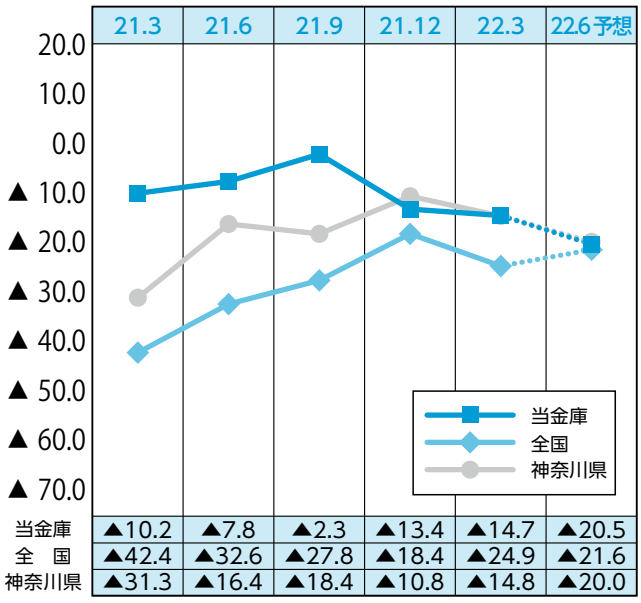
製造業の業況判断 D.I. は前回調査比 1.3 ポイント小幅悪化の▲14.7 となりました。項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 12.6 ポイント悪化の▲14.8、収益 D.I. は 13.7 ポイント悪化の▲17.0 となっております。

自動車関連部品製造では、オミクロン株の感染拡大に加え、東南アジア諸国からの部品供給難や慢性的な半導体不足等の影響により挽回生産が思うように進まず、受注量は足踏み状態が続いております。また、原材料価格や燃料費高騰などの影響も重なったことから景況感は 2 期連続の悪化となっております。一部の企業においては今後世界情勢の悪化を起因とする受注量の減少が危惧されております。

なお、全国は 6.5 ポイント悪化の▲24.9 となっており、神奈川県は 4.0 ポイント悪化の▲14.8 となっております。

来期の予想業況判断については、5.8 ポイント悪化の▲20.5 となっております。

●業況判断 D.I. 値



	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲10.2	▲7.8	▲2.3	▲13.4	▲14.7	▲20.5
全　国	▲42.4	▲32.6	▲27.8	▲18.4	▲24.9	▲21.6
神奈川県	▲31.3	▲16.4	▲18.4	▲10.8	▲14.8	▲20.0

売上額

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	22.2	53.4	24.4	▲2.2
当期実績	27.2	30.8	42.0	▲14.8
来期予想	22.7	47.8	29.5	▲6.8
前年同期比	38.6	26.2	35.2	3.4

収益

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	22.2	52.3	25.5	▲3.3
当期実績	19.3	44.4	36.3	▲17.0
来期予想	17.0	52.4	30.6	▲13.6
前年同期比	34.0	27.4	38.6	▲4.6

販売価格

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	6.6	85.7	7.7	▲1.1
当期実績	9.0	84.2	6.8	2.2
来期予想	14.7	81.9	3.4	11.3

原材料価格

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	65.5		34.5	65.5
当期実績	75.0		23.9 1.1	73.9
来期予想	68.1		31.9	68.1

在庫

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	8.8	81.2	10.0	▲1.2
当期実績	13.6	78.5	7.9	5.7
来期予想	10.2	79.6	10.2	0.0

資金繰り

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	10.0	75.6	14.4	▲4.4
当期実績	9.1	70.3	20.6	▲11.5
来期予想	6.8	76.0	17.2	▲10.4

人手

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	11.1	70.1	18.8	▲7.7
当期実績	10.2	67.1	22.7	▲12.5
来期予想	11.3	64.9	23.8	▲12.5

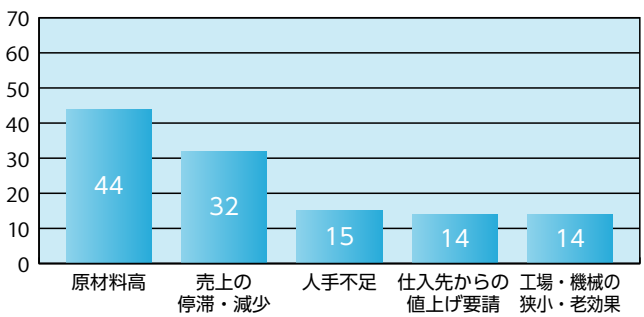
設備状況

	良い・増加・上昇 過剰・楽	普通・変わらず 適正	悪い・減少・下降 不足・苦しい	D.I.
前期実績	5.5	77.9	16.6	▲11.1
当期実績	3.4	79.6	17.0	▲13.6
来期予想	3.5	81.3	15.2	▲11.7

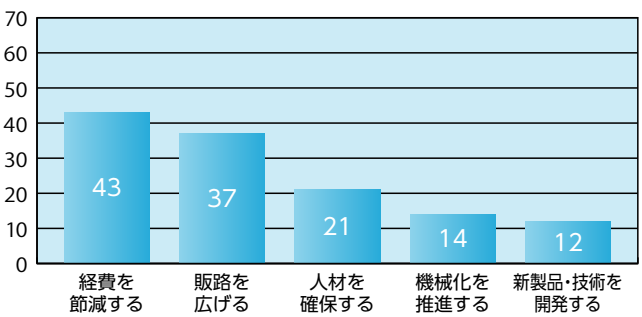
当期実績…2022 年　1～　3 月期
来期予想…2022 年　4～　6 月期

良い、増加、上昇 過剰、楽　／　普通、変わらず 適正　／　悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



卸 売 業

●概　況

卸売業の業況判断 D.I. は前回調査比 15.0 ポイント改善の▲20.7 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 3.4 ポイント悪化の▲3.4、収益 D.I. は 24.2 ポイント悪化の▲20.7 となっております。

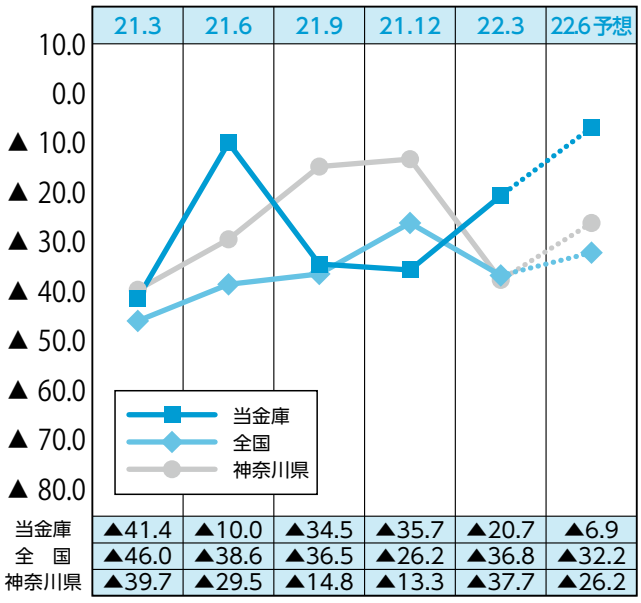
食品卸売業では、まん延防止等重点措置の延長による人流抑制に伴う飲食店からの受注減少に加え、多くの食料品において仕入価格が高騰しており、収益環境の悪化へと繋がっております。建材卸売業においても木材、鋼材、塗料など材料価格の高騰が続いており、十分な価格転嫁に踏み切れていない企業が見受けられていることなどから売上額・収益 D.I. ともに悪化となっております。

今後につきましても企業物価の上昇が続くとみられ、予想仕入・原材料価格 D.I. につきましても上昇が見込まれております。

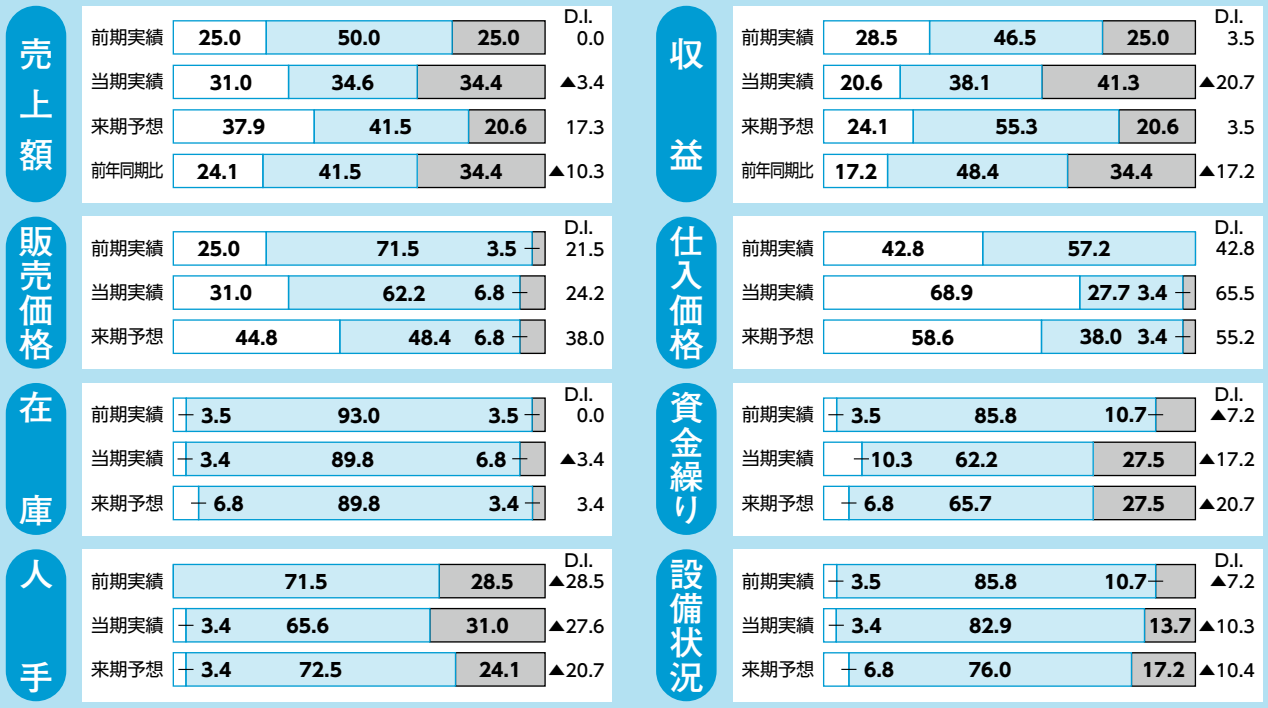
なお、全国は 10.6 ポイント悪化の▲36.8 となっており、神奈川県は 24.4 ポイント悪化の▲37.7 となっております。

来期の予想業況判断については、13.8 ポイント改善の▲6.9 となっております。

●業況判断 D.I. 値



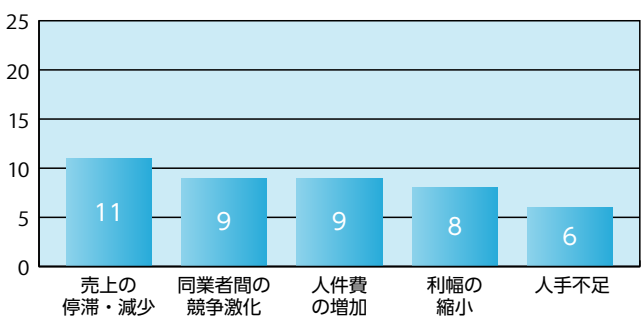
	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲41.4	▲10.0	▲34.5	▲35.7	▲20.7	▲6.9
全　国	▲46.0	▲38.6	▲36.5	▲26.2	▲36.8	▲32.2
神奈川県	▲39.7	▲29.5	▲14.8	▲13.3	▲37.7	▲26.2



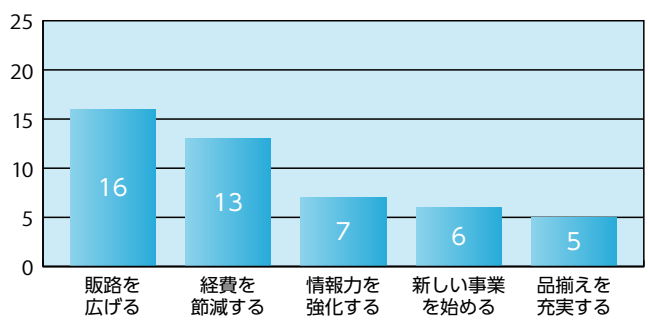
当期実績…2022 年　1～　3月期
来期予想…2022 年　4～　6月期

良い、増加、上昇 過剰、楽　普通、変わらず 適正　悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



小売・飲食業

●概　況

小売・飲食業の業況判断 D.I. は前回調査比 15.6 ポイント悪化の▲48.4 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 40.2 ポイント悪化の▲50.0、収益 D.I. は 45.0 ポイント悪化の▲53.2 となっております。

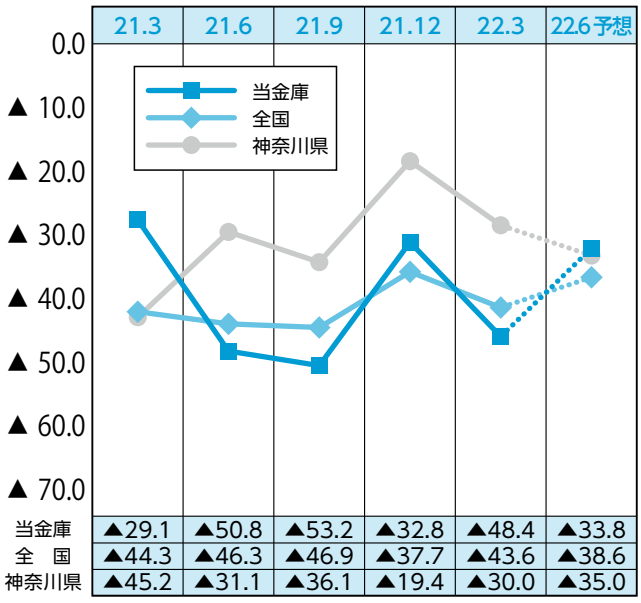
飲食店においてはまん延防止等重点措置の延長により、依然自粛ムードが継続しており、宴会予約のキャンセル等夜間の営業に大きく影響が出ていることに加え、小麦や食用油などの原材料価格の高騰等、収益環境は依然として厳しい状況にあります。

一方、行政による秦野応援クーポン等需要喚起策の支援効果として飲食店や食品小売店では来店客増加や客単価の上昇、新規顧客の来店へと繋がった企業が見受けられました。

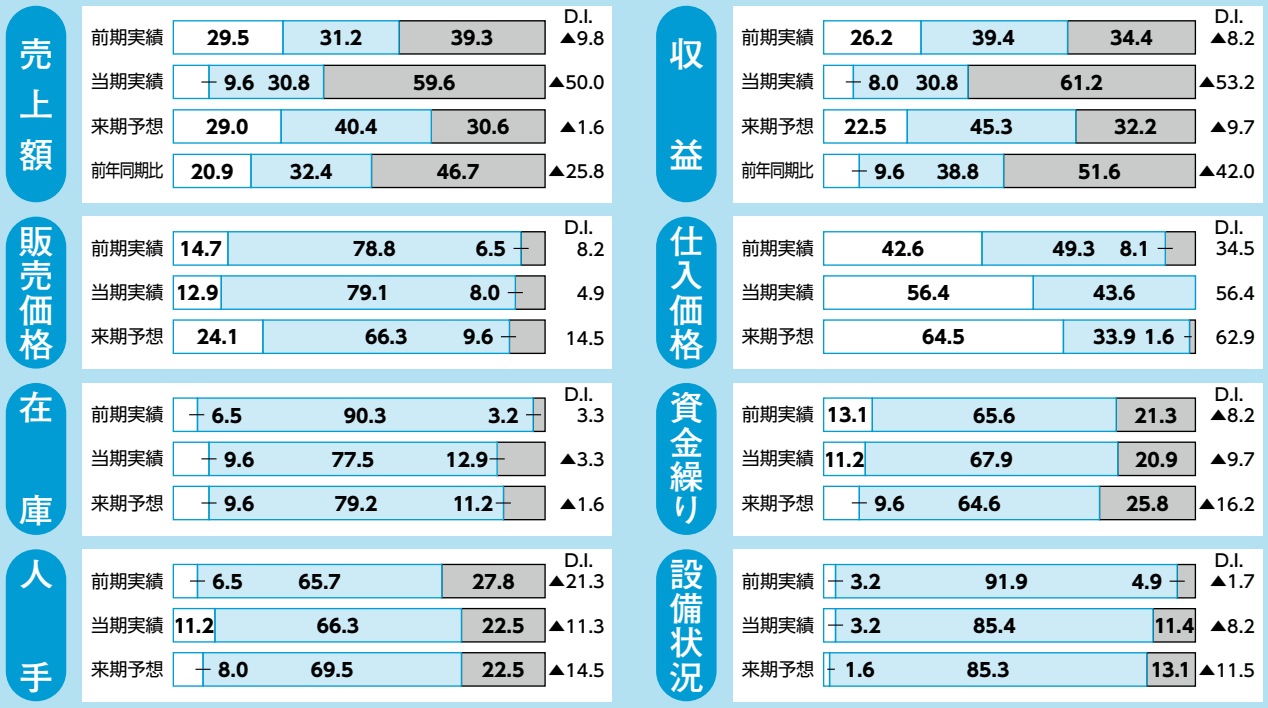
なお、全国は 5.9 ポイント悪化の▲43.6 となっており、神奈川県は 10.6 ポイント悪化の▲30.0 となっております。

来期の予想業況判断については、14.6 ポイント改善の▲33.8 となっております。

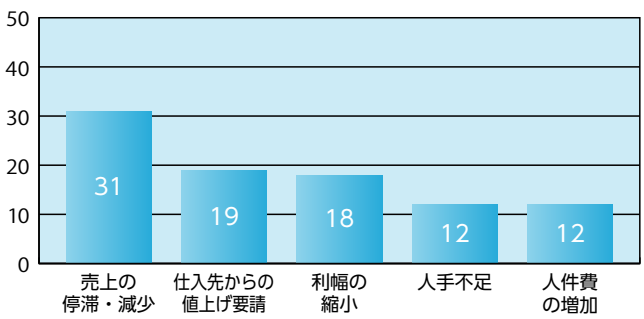
●業況判断 D.I. 値



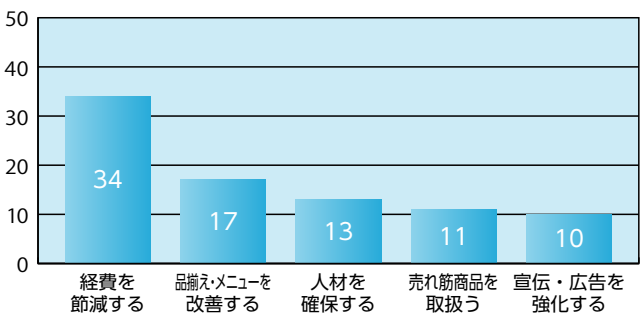
	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲29.1	▲50.8	▲53.2	▲32.8	▲48.4	▲33.8
全　国	▲44.3	▲46.3	▲46.9	▲37.7	▲43.6	▲38.6
神奈川県	▲45.2	▲31.1	▲36.1	▲19.4	▲30.0	▲35.0



経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



サービス業

●概　況

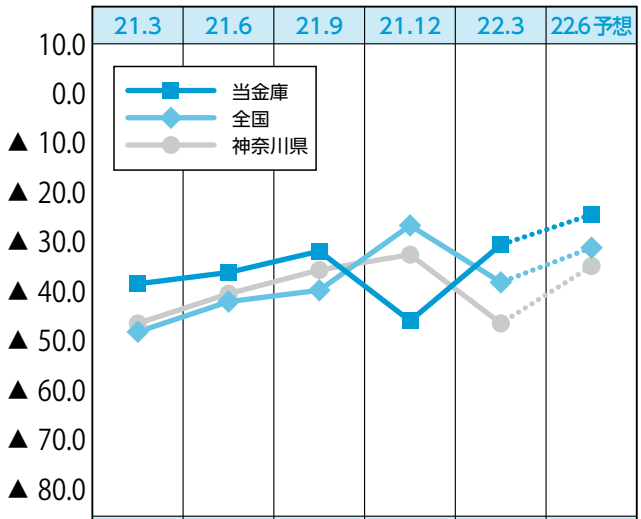
サービス業の業況判断 D.I. は前回調査比 15.4 ポイント改善の▲30.6 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 18.6 ポイント悪化の▲28.6、収益 D.I. は 20.7 ポイント悪化の▲36.7 となっております。

コロナウイルス感染者数の増加による客足の減少に伴い宿泊業、介護事業、理美容業等多くの業種において売上減少となっております。運送業については原油高による燃料費高騰が企業の収益環境に大きく影響していることなどから景況感については依然マイナス域での推移となっております。また、コロナウイルスの影響により従業員の欠員が相次いだことで企業活動に支障をきたしている企業が多く見受けられております。

なお、全国は 11.5 ポイント悪化の▲38.2 となっており、神奈川県は 13.9 ポイント悪化の▲46.5 となっております。

来期の予想業況判断については、6.1 ポイント改善の▲24.5 となっております。

●業況判断 D.I. 値



	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲38.5	▲36.2	▲31.9	▲46.0	▲30.6	▲24.5
全　国	▲48.2	▲42.1	▲39.8	▲26.7	▲38.2	▲31.2
神奈川県	▲46.5	▲40.5	▲35.7	▲32.6	▲46.5	▲34.9

売上額

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	28.0	34.0	38.0	▲10.0
当期実績	18.3	34.8	46.9	▲28.6
来期予想	24.4	53.2	22.4	2.0
前年同期比	41.6	29.3	29.1	12.5

収益

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	24.0	36.0	40.0	▲16.0
当期実績	12.2	38.9	48.9	▲36.7
来期予想	18.3	51.1	30.6	▲12.3
前年同期比	27.0	41.8	31.2	▲4.2

料金価格

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	8.0	84.0	8.0	0.0
当期実績	8.1	85.8	6.1	2.0
来期予想	10.2	85.8	4.0	6.2

材料価格

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	36.7		63.3	36.7
当期実績	43.7		56.3	43.7
来期予想	37.5		62.5	37.5

資金繰り

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	6.0	62.0	32.0	▲26.0
当期実績	4.0	65.4	30.6	▲26.6
来期予想		70.9	29.1	▲29.1

人手

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	8.0	44.0	48.0	▲40.0
当期実績	12.2	49.1	38.7	▲26.5
来期予想	10.2	57.2	32.6	▲22.4

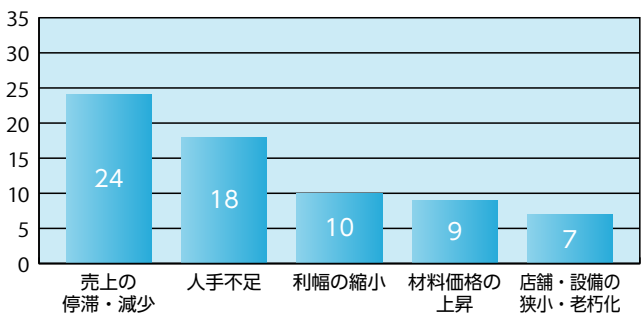
設備状況

	良い、増加、上昇 過剰、楽	普通、変わらず 適正	悪い、減少、下降 不足、苦しい	D.I.
前期実績	2.0	74.0	24.0	▲22.0
当期実績		77.6	22.4	▲22.4
来期予想	2.0	79.7	18.3	▲16.3

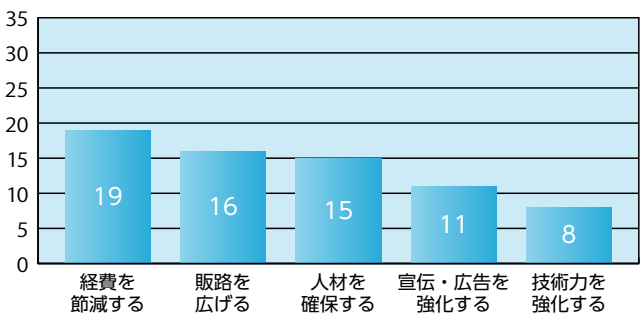
当期実績…2022 年　1～　3月期
来期予想…2022 年　4～　6月期

良い、増加、上昇 過剰、楽　／　普通、変わらず 適正　／　悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



建 設 業

●概　況

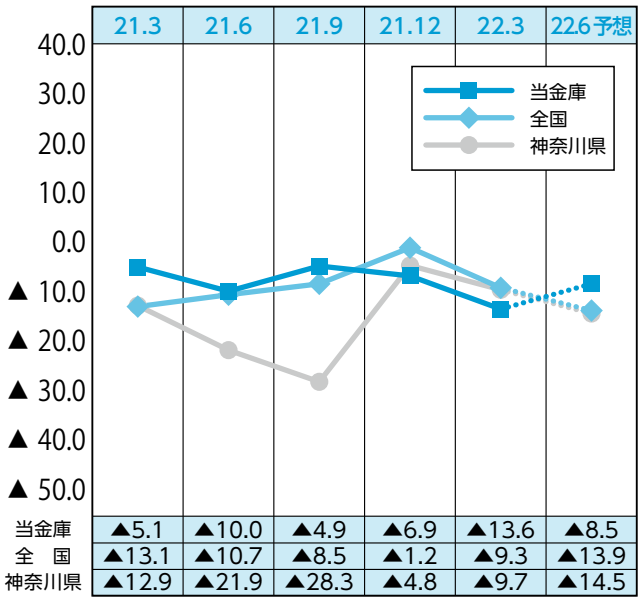
建設業の業況判断 D.I. は前回調査比 6.7 ポイント悪化の▲13.6 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 8.5 ポイント悪化の▲8.5、収益 D.I. は 16.8 ポイント悪化の▲25.4 となっております。

コロナウイルスの影響により先送りとなっていた民間企業や個人顧客からの受注が一定数見受けられたことに加え、当営業エリアではリモートワークの影響等による不動産需要の高まりに伴い、土地造成工事などを手掛ける企業においては不動産業者との繋がりにおいて工事受注を請負う企業がみられております。しかし、原材料価格の高騰や住設機器の納期遅延による工期延長等の影響が景況感回復の妨げとなっていることから景況感については 2 期連続の悪化となっております。

なお、全国は 8.1 ポイント悪化の▲9.3 となっており、神奈川県は 4.9 ポイント悪化の▲9.7 となっております。

来期の予想業況判断については、5.1 ポイント改善の▲8.5 となっております。

●業況判断 D.I. 値



	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲5.1	▲10.0	▲4.9	▲6.9	▲13.6	▲8.5
全　国	▲13.1	▲10.7	▲8.5	▲1.2	▲9.3	▲13.9
神奈川県	▲12.9	▲21.9	▲28.3	▲4.8	▲9.7	▲14.5

売上額

				D.I.
前期実績	31.0	38.0	31.0	0.0
当期実績	20.3	50.9	28.8	▲8.5
来期予想	28.8	44.1	27.1	1.7
前年同期比	15.2	51.0	33.8	▲18.6

収益

				D.I.
前期実績	25.8	39.8	34.4	▲8.6
当期実績	11.8	51.0	37.2	▲25.4
来期予想	20.6	46.7	32.7	▲12.1
前年同期比	13.5	45.9	40.6	▲27.1

請負価格

				D.I.
前期実績	12.0	77.7	10.3	1.7
当期実績	16.9	73.0	10.1	6.8
来期予想	20.3	64.5	15.2	5.1

材料価格

				D.I.
前期実績	70.6	27.7	1.7	68.9
当期実績	74.5	22.2	3.3	71.2
来期予想	71.1	25.6	3.3	67.8

在庫

				D.I.
前期実績	3.4	89.8	6.8	▲3.4
当期実績	6.7	83.2	10.1	▲3.4
来期予想	5.0	81.5	13.5	▲8.5

資金繰り

				D.I.
前期実績	10.3	74.2	15.5	▲5.2
当期実績	1.6	78.1	20.3	▲18.7
来期予想	5.0	76.4	18.6	▲13.6

人手

				D.I.
前期実績	3.4	58.7	37.9	▲34.5
当期実績	5.0	52.7	42.3	▲37.3
来期予想	1.6	54.4	44.0	▲42.4

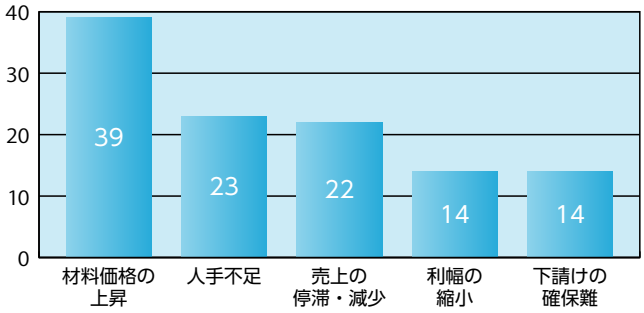
設備状況

				D.I.
前期実績	1.7	96.6	1.7	0.0
当期実績	1.6	95.1	3.3	▲1.7
来期予想	1.6	93.4	5.0	▲3.4

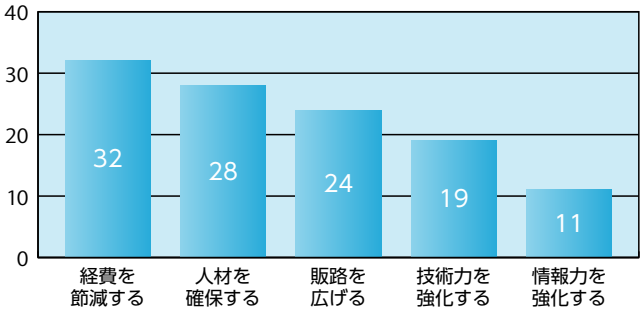
当期実績…2022 年　1～　3 月期
来期予想…2022 年　4～　6 月期

良い、増加、上昇 過剰、楽　／　普通、変わらず 適正　／　悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



不動産業

●概　況

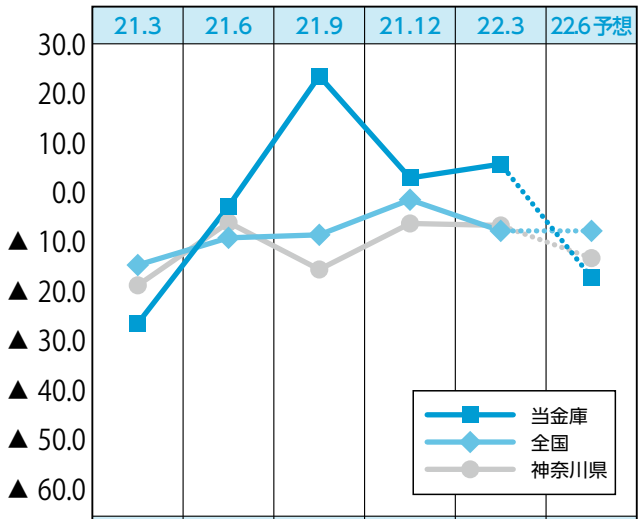
不動産業の業況判断 D.I. は前回調査比 2.8 ポイント小幅改善の 5.7 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 22.7 ポイント悪化の▲8.5、収益 D.I. は横ばいの 8.5 となっております。

不動産業者においては、新たな生活用式への変化による不動産需要の高まりにより、依然商品販売期間は短期化しております。一方、商品仕入については市場に商品が出回らず、仕入に苦慮していることから各企業の商品不足感は一層強まっており、経営上の問題点で約 7 割の企業が商品物件の不足を挙げております。今後については、企業間での情報共有を強化し、複数企業での共同仕入や競売物件への入札等の新たな仕入方法に取り組む企業が見受けられております。また、賃貸管理業では大学のリモート授業再開に伴う学生アパートの賃貸需要低下の影響により問い合わせ数が減少しており、今後についても感染状況により賃貸需要の変化がみられることから、先行きの不透明感が強まっております。

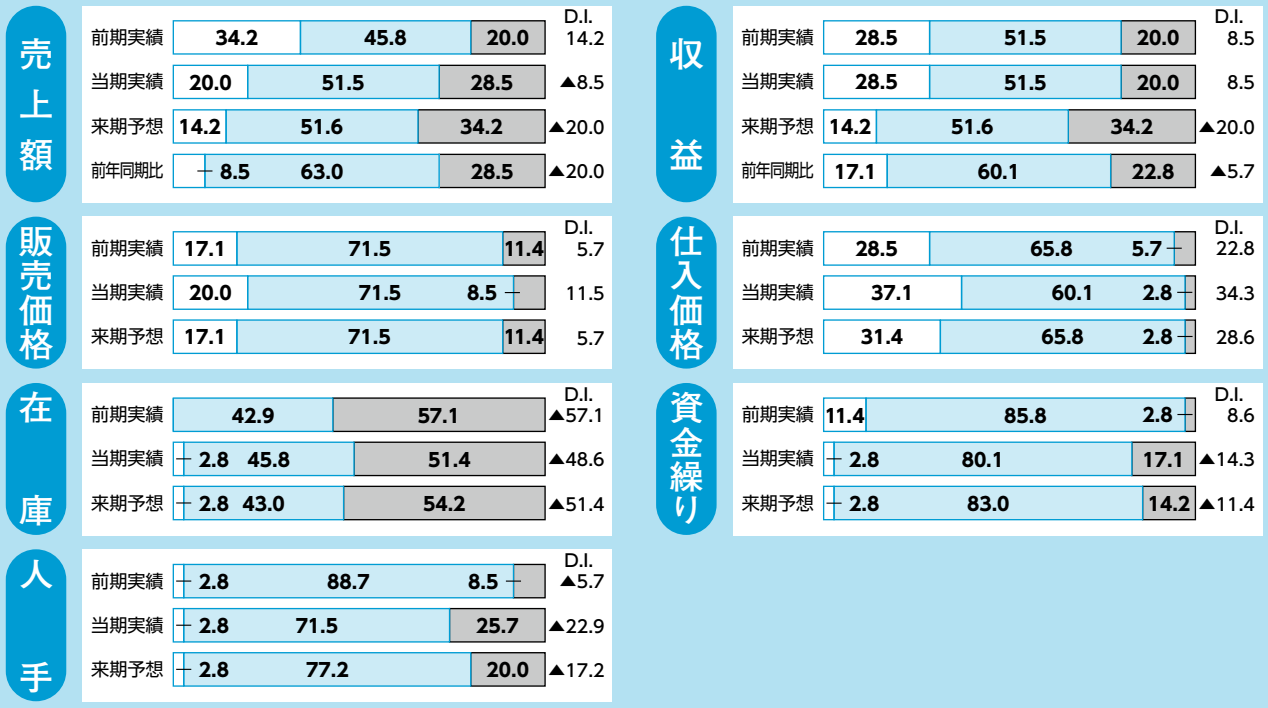
なお、全国は 6.3 ポイント悪化の▲7.8 となっており、神奈川県は 0.4 ポイント小幅悪化の▲6.7 となっております。

来期の予想業況判断については、22.9 ポイント悪化の▲17.2 となっております。

●業況判断 D.I. 値



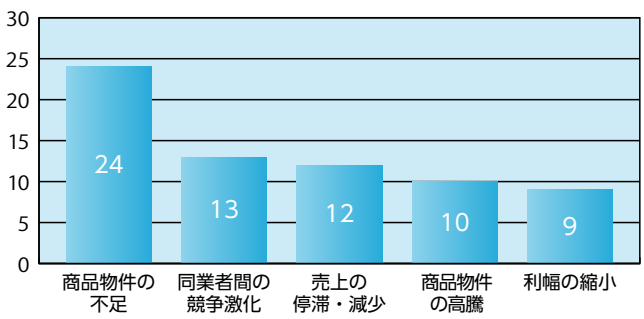
	21.3	21.6	21.9	21.12	22.3	22.6予想
当金庫	▲26.5	▲2.8	23.5	2.9	5.7	▲17.2
全　国	▲14.7	▲9.2	▲8.6	▲1.5	▲7.8	▲7.8
神奈川県	▲18.8	▲6.1	▲15.6	▲6.3	▲6.7	▲13.3



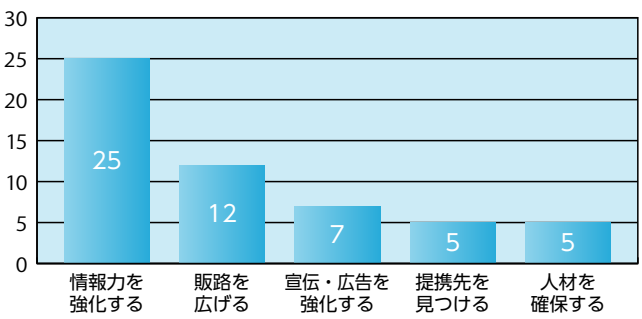
当期実績…2022 年　1～　3 月期
来期予想…2022 年　4～　6 月期

良い、増加、上昇 過剰、楽　普通、変わらず 適正　悪い、減少、下降 不足、苦しい

経営上の問題点（複数回答）



当面の重点経営施策（複数回答）



特別調査「新型コロナ感染拡大長期化の影響と原材料・仕入価格の上昇への対応について」

当金庫のお客様 340 社にお願いして特別調査を実施いたしました。

問１．貴社における今期（１～３月）の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合（例年の１～３月）と比較してどの程度売上に影響がありましたか。あてはまるものを１つ選んでお答えください。

○ 90%以上の減少	1 社	○ ほぼ変化なし（10%未満の増減）	140 社
○ 70%以上 90%未満の減少	5 社	○ 10%以上 30%未満の増加	29 社
○ 50%以上 70%未満の減少	19 社	○ 30%以上の増加	8 社
○ 30%以上 50%未満の減少	35 社		
○ 10%以上 30%未満の減少	82 社		

問２．貴社における次期（４～６月）の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合（例年の４～６月）と比較してどの程度売上に影響があると考えられますか。あてはまるものを１つ選んでお答えください。

○ 90%以上の減少	0 社	○ ほぼ変化なし（10%未満の増減）	153 社
○ 70%以上 90%未満の減少	4 社	○ 10%以上 30%未満の増加	36 社
○ 50%以上 70%未満の減少	14 社	○ 30%以上の増加	4 社
○ 30%以上 50%未満の減少	38 社		
○ 10%以上 30%未満の減少	70 社		

問３．貴社の原材料・仕入価格は１年前と比較してどの程度変化しましたか。あてはまるものを１つ選んでお答えください。

○ 0 ～ 3%程度の上昇	34 社	○ 20 ～ 25%程度の上昇	19 社
○ 3 ～ 5%程度の上昇	40 社	○ 25 ～ 30%程度の上昇	10 社
○ 5 ～ 10%程度の上昇	88 社	○ 30%以上の上昇	13 社
○ 10 ～ 15%程度の上昇	56 社	○ 価格は低下した	1 社
○ 15 ～ 20%程度の上昇	26 社	○ わからない	30 社

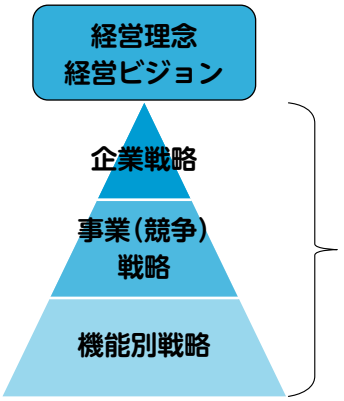
問４．貴社では、原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。あてはまるものを１つ選んでお答えください。

○ 転嫁できている（仕入価格上昇の 100%）	26 社	○ 全く転嫁できていない	25 社
○ ほぼ転嫁できている（仕入価格上昇の 80 ～ 100%程度）	37 社	○ 販売価格は低下している	0 社
○ ある程度転嫁できている（仕入価格上昇の 50 ～ 80%程度）	62 社	○ 仕入価格は上昇していないため転嫁の必要なし	19 社
○ 多少転嫁できている（仕入価格上昇の 20%～ 50%程度）	45 社	○ わからない	20 社
○ ほとんど転嫁できていない（仕入価格上昇の 0 ～ 20%程度）	83 社		

問５．原材料・仕入については、価格上昇のほか、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。貴社では、各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。問題を抱えている方は現在行っている対策を最大３つまで選んでお答えください。

○ 必要量・質が確保できている	58 社	○ 受注（販売）の停止	19 社
○ 受注（販売）数量の制限	60 社	○ 取扱商品の見直し（新商品など）	18 社
○ 代替商品の調達（品質の見直し等）	51 社	○ 販売先への納期の調整	16 社
○ 仕入先の変更・多角化	48 社	○ 特に対応を行っていない	14 社
○ 代替商品の調達（同等品質）	47 社	○ その他	18 社

経営のポイント！『経営戦略③』

前回、経営戦略は「何のために必要なのか」を考えてみました。今回は、経営戦略の階層構造について考えてみたいと思います。まず、下図のように経営戦略には３つの階層があります。企業が長期にわたって持続的な成長を続けていくための「企業戦略」。次いで、個別事業においてどのように競争すべきか考える「事業戦略」。最後に、生産・商品開発戦略・財務・人事などの各機能の生産性を高める「機能別戦略」。これらは経営理念、経営ビジョンを頭として一貫性を持った形で構築していく必要があります。なお、単一事業のみを展開している場合は、「企業戦略」と「事業戦略」は同一でもかまいません。

企業戦略を策定する上で大事な考え方として、企業ドメイン（当社はどのような領域で事業を展開するべきか）や経営資源展開（各事業間での経営資源の配分・展開をどのようにすべきか）などが挙げられます。次回は、企業ドメインについて考えてみたいと思います。